

# まきは

## 「大麦の刈り入れが」

「ナオミがモアブの野から来た嫁、モアブの女ルツと一緒に帰り、ベツレヘムに着いたのは、大麦の刈り入れが始まった頃であった。」

(ルツ記 第1章22節・旧約聖書406頁)

はじめに

ルツ記については聖書の中でも美しい物語として知られています。読みやすいこともあり、多くの方に親しまれているのですが、この物語にはその裏で、神の御手がどのように働いているのかがはっきりと示されており、今回は、そのことを見ながら、神が私たちの人生にどのように介入しておられるのか、そして、私たちがその御手の内に歩むことができる幸いを受け取らせていただきたいと思います。

神への反逆

最初の舞台はベツレヘムです。ベツレヘムとは、「パンの家」との意味があり、神の養われる場所との意味が含まれています。ところが、「ある男」エリメレクは、「モアブの野に身を寄せようとかけて行った」のでした。モアブは非常に豊かな土地だったのですが、しかしこれは神の養いを捨てる行為だったのです。荒野の経験でも民たちはたびたびパンがないと不平不満を言っていました。約束の地に定住後のこの行為もまた同様の背反行為だったのです。そのために、神の祝福をたちまちに失います。エリメレクが死に、2人いた息子たちも亡くなり、妻のナオミ、そして妻たちは生活できなくなってしまうのです。

神の御心を求めて

ナオミのベツレヘムへの帰還は、悔い改めにほかなりません。神は、強い御手をもって、彼女を神のもとに帰るように促し、ナオミはその憐れみの導きに答えたのです。

私たちは常に神の御心は何かと問いかけながら行動していくべきです。神の声、御言葉が常に心に響くわけではないので、ある意味で手探りで、自分の判断が求められますが、御心に沿って行こうと行動していけば、道が開かれ、また閉ざされ、さらには全く違うように進むこともあるものの、結果は神が導かれている道であると信じ、常に、そこにあることを感謝し、受け入れていくことが大切です。

大麦の刈り入れ

ナオミが帰ってきた時は、大麦の刈り入れが始まった頃でした。話の進み具合からして、ナオミは帰る時期などは考える余裕はなかったと思います。思い立った時が、たまたまこの時期だったのです。しかし、これこそが神のご計画でした。この時期だったからこそ、落ち穂を拾うことができたからです。さらに、嫁のルツが落ちを拾うために出かけた畑でボアズに会うことができたわけです。それだけではなく、この時期は、ちょうど過越の祭が行われる時期でもありました。神は、ナオミに対し、自分が自己中心であったことで引き起こされた悲しみの舞台から贖い、出エジプトをさせてくださることを再確認させる絶好の時期でもあったのです。遠大な計画であるからこそ、私たちには理解できないこともあるのですが、神は常に私たちを最善に導いてくださっています。信じて歩みましょう。

【礼拝説教はスマホでも視聴できます】  
右記のQRコードを読み取ってアクセスしてください。



## 今週の祈り

「士師たちが世を治めていた頃、国で飢饉が起こったので、ある男がユダのベツレヘムからモアブの野に身を寄せようと出かけて行った。妻と二人の息子が一緒であった。…こうしてナオミは二人の息子と夫に先立たれた。そこで、ナオミは嫁たちと連れ立って、モアブの野から帰ることにした。主がその民を顧み、人々に食物をお与えになっていることをモアブの野で耳にしたからである。…ナオミがモアブの野から来た嫁、モアブの女ルツと一緒に帰り、ベツレヘムに着いたのは、大麦の刈り入れが始まった頃であつた。」(ルツ記 1:1,6,22)



私はあなたがよくしてくださっていることを忘れて、すぐにあなたの養いを見くびり、神さまに背を向けて行動してしまいました。不信感をあらわにし自分の考え通りに事を進めてしまいます。だから、祝福を十分に受けられないのでしょうか。どうぞ、愚かな私をお救しくください。私はあなたが私にとって最善をなされることを信じます。いつもあなたの御旨がどこにあるのかを考えて行動します。主よ、憐れんでください。そして御旨のままに歩ませてください。御名によってお祈りいたします。アーメン。

## 深読みにチャレンジ!

### 箴言 (40) 第2章20節

\*三つの違う訳を読み比べてみましょう。

◎協会共同訳 「こうして、あなたは善良な人の道を歩み 正しき人の道筋を守ることができる。」

◎口語訳 「こうして、あなたは善良な人々の道に歩み、正しい人々の道を守ることができる。」

◎新改訳 「だから、あなたは良い人々の道に歩み、正しい人々の道を守るがよい。」

「こうして」

第1章8節から語られ始めた「父から子への論しの言葉」は知恵の大切さに重点が置かれています。その上で、悪からの誘いにのってはいならないと忠告し、悪と一緒に滅びの道に進まないようにと戒めています。知恵についての言葉が語られた後、第2章1節からの「父から子への論しの言葉」は、主から与えられる知恵を聞き、道を曲がらないように警告をし、誘い来る肉の欲に注意をするように語っています。

この節の冒頭の「こうして」は、知恵を聞き、さまざまな誘惑に打ち勝っていくことによってもたらされる結果を示しています。

「善良な人の道」の「善良」に用いられているのは、「神は言われた。『光あれ。』すると光があった。神は光を見て良しとされた。」(創世記 1:3～4)に用いられている「良し」と同じ語です。人間をお造りになって創造の業を終えられた神は、

### 【神からの知恵によって生きる】

箴言はソロモンが語った知恵の言葉を中心に構成されています。31章から構成されていますが、あたかも短編を読んでいるかのように、種々雑多な知恵の言葉が連なっています。ソロモンが思いつくままに語った言葉を、そのまま筆記したのではないかと思えるほどです。

この書このような性格上、まとめて解説するのが難しいため、この欄で、一つ一つの言葉をじっくり味わいたいと思います。箴言から得る知恵によって、深みのある生き方を学び、よりよい人間関係を築かせていただきたいと思います。

- 1 父から子へ・受け継がれるべき知恵 (1:1～9:18)
- 2 生活の処方箋・知っておくべき知恵 (10:1～22:16)
- 3 先人からの知恵 (22:17～31:31)
  - a 知恵ある人の言葉 (22:17～24:34)
  - b ソロモンの言葉 (25:1～29:27)
  - c アゲルの言葉 (30:1～33)
  - d レムエルの言葉 (31:1～31)

「造ったすべてのものをご覧になった。それは極めて良かった」(創世記 1:31)のです。つまり、神が創造された世界こそが「善良」であり、人間は知恵に聞き、その誘惑に陥らないことで「極めて良かった」という人間の至福の状態を保つ、または回復できるわけです。これは誘惑の多いこの世に生きる私たちにとって、神の御心に生きる命綱であると言えます。神の知恵に生き、その知恵を重ねていく中で、誘惑に勝つ力が勝れていくでしょう。私たちは「極めて良い」状態を保っていかなくてはなりません。

## 聖書日課

毎朝、決められた時間に聖書を読み、お祈りをするのはクリスチャンの生命線です。この聖書日課を使って心の糧を欠かさないようにしましょう。そのために最低でも15分間を神との交わりのために聖別してください。

朝にどうしても時間のとれない方は、昼休みでも就寝前でもかまいません。ぜひ、実行してください。

### 【祈りの時の持ち方(例)】

- ①まず黙想し、次に、自分の心を神に向けるために賛美する。賛美曲を歌えない場合は、歌詞を味わう。
- ②御言葉を読み、自分へのメッセージが何かをさぐる。例えば、神の恵み、告白すべき罪、従うべき命令、ならうべき模範など。
- ③自分が神のメッセージにどうこたえるのかを祈る。感謝や信頼の表明、悔い改め、服従、献身など。
- ④自分の祈りだけでなく、できるだけ「祈禱課題」も祈る。

**【月曜日】** ◆今週のすべての集会在祝福され、救いにつながるように祈りましょう。

創世記第41章1節「それから二年たつて、ファラオは自分がナイル川のほとりに立っている夢を見た。」◆パロの見た夢は、あの献酌官長にヨセフを思い起こさせる契機となった。このことにより、ヨセフは奴隷、獄囚からエジプトの総理大臣とせられ、民族を救うに至ったのである。機が熟すのは二年かかったが、それからは一瞬にしてすべてが花開くように輝いた。苦難の期間はあったとしても、絶えず神から目をそむけてはならない。ヨセフの神は、また私たちの神でもある。神は私たちの意思を優先にするのではなく、最善の時を待って、わざをなされる。

### ●賛美 / 303 ●祈禱課題

- ◆昨日、礼拝に集えなかった人が恵みからもれないように。
- ◆この教会も世界宣教の一拠点であることを自覚し、重荷を持って祈れるように。特に共産圏、イスラム圏伝道が進むように。迫害にある宣教師のために。現地語聖書の翻訳が進むように。異端からの救出が進むように。台湾活水泉の活動のために。

**【火曜日】** ◆教会のビジョンのため、将来の働きが祝福されるように祈りましょう。

創世記第42章18節「ヨセフは彼らに言った、『こうすれば、命は助けてやろう。私は神を畏れる者だ。』」◆ヨセフの説き明かし通り七年の豊作後、七年の大飢饉が襲来した。エジプトは豊作の間穀物を蓄えていたので、通常と変わることなく生活することができた。だが、外国はそうではなかった。ヤコブ一家も同様、エジプトに食糧を買い求めてきた。そしてあの夢が現実となり、兄弟たちは奇しくもヨセフを拝することになる。この時、ヨセフは神にさらに深い畏敬の念を抱いたに違いない。神はすべてを動かしておられる方である。

### ●賛美 / 304 ●祈禱課題

- ◆日本福音同盟、日本福音連盟、聖化交友会、キリスト教各出版社、EHC、ケズィック、太平洋放送協会、F E B C、キリスト者学生会、日本国際飢餓対策機構、ワールド・ビジョン、いのちの水計画、総動員伝道、Hi-b.a、日本国際ギデオン協会(聖書配布)、新生宣教団等の働きとスタッフのため。

**【水曜日】** ◆宣教福祉事業が祝福されるように祈りましょう。

創世記第43章11節「父のイスラエルは息子たちに言った。」◆ヤコブはこの章では父のイスラエルと呼ばれているのだが、イスラエルと名前を変えられても、その後ほとんどイスラエルではなく、ヤコブという名を用いられている。私たちに信仰にある種の動揺、または、不信に近い感情を持つことがある。なぜなら世の力との戦いの中で受け身になり、劣勢になってしまうからだ。時には、救われる前のヤコブ(押しつけるもの)となる姿に戻ってしまっても、どこまでも憐れみを求め、イスラエル(神によって勝つ者)と呼ばれる者とされようではないか。

### ●賛美 / 305 ●祈禱課題

- ◆新会堂が与えられるように祈りましょう。①バス通りに面した場所に良い土地が与えられるように②十分な資金が与えられるように③早期に建てられるように
- ◆宗教法人を取得できるように
- ◆伝道の拠点が祝福され、用いられるように。(まきば、小山宮下事務所、向陽町)



【木曜日】◆弱っている方々、病にある方々のために祈りましょう。

創世記第44章33節「どうか僕をこの子の代わりに、ご主人様の僕としてここにとどめ置き、この子は兄弟と一緒に上らせてください。」◆ベニヤミンをかばったユダは、ヨセフを奴隷として売った人物である。その人が、この時「私が奴隷となる」と自分が代わりを申し出た。ヨセフは兄の変わり様に驚いたと思う。なぜ変わったのか。それは、もともと異母兄弟であり、反目し合っていた兄弟たちが、この事件を通して初めてのように一つにせられたからではないだろうか。そしてその心が神に向けられたからではないか。主にあって一つとなった時、真の和解がある。

●賛美／306 ●祈禱課題

◆教会学校の成長と救い、青年の結婚、教会員の信仰の成長と家族の救いのため。

◆教会ビジョンのため（社会宣教事業、伝道所の開設、保養施設建設、会堂建築、納骨堂、宗教法人格取得、学生寮、高齢者住宅）、教会員から伝道者や献身者が与えられるよう、教会会計の祝福

【金曜日】◆礼拝出席平均が50名以上となり、受洗者が年間3名以上与えられるように祈りましょう。

創世記第45章8節「私をここへ遣わしたのは、あなたがたではなく、神です。」◆ヨセフの物語のクライマックスである。子どもたちがテレビでよく見ている「正義の味方」は絶対に負けない。はらはらさせて最後に「やったー」と喜ばせる勝利で終わる。大人はそれを知っているから、今は劣性だけどどうやって勝っていくのかなと考えている。同様に、私たちは「神は必ず勝たせてくださる」との、大人の信仰をもって神のなされることを見ていこうではないか。そして子どものように神の御業、勝利を喜ぼう。神は、神が味方となっておられる者に必ず勝利を与える。

●賛美／307 ●祈禱課題

◆この教会に聖霊の著しい働きがもたらされ、リバイバルが起こるように。常に新来会者が与えられ、求道者、受洗希望者がもたらされて、教勢が祝福されるように。

◆土屋牧師、淳子師（牧師一家）、思乃扶師、石出師の働きのために。

◆老齢の方、病の中にある方々のいやしのために。

【土曜日】◆聖日に備え、健康が保たれ、出席しやすい天候が与えられるように祈りましょう。

創世記第46章5節「ヤコブはベエル・シェバをたった。」◆ヤコブは、「死んだ」と思ってあきらめていたヨセフが生きているだけでなく、エジプトの宰相となっていたと聞き、「呆然とした」（45:26）。気が遠くなるほど驚いたのだ。ヤコブの喜びたるや相当なものだったに違いない。だが、彼はまずベエル・シェバに行き、神への礼拝をささげて御旨を仰いだ。人間は喜びの時に神を忘れやすい。しかし、大事なのは喜びの時に神の前にて、なおもそこで御旨を問うことである。どんな時にも神の御旨に従うことを忘れてはならない。

●賛美／308 ●祈禱課題

◆子どもを含め、すべての人が礼拝を守れるように。あらゆる集会が祝福され、参加者が御言葉によって取り扱われるように。奉仕者が恵まれてご用にあたれるように。

◆ホームページが用いられるように。また礼拝動画が用いられるように。教会から出している週報や印刷物が用いられるように。

【日曜日】◆新来会者が起こされるように祈りましょう。

創世記第47章7節「ヨセフは父のヤコブを連れて来て、ファラオの前に立たせた。ヤコブはファラオに祝福の言葉を述べて挨拶した。」◆ヨセフとの感激の再会を果たしたヤコブはファラオのもとに連れて行かれた。そこでヤコブはファラオを祝福する。栄華と力を誇るエジプトの王に比べ、ヤコブたちはいわば難民であり、祝福ということであれば境遇からしたら立場が逆のように感じる。だがヤコブははどうと祝福している。それは神によって「祝福の基」として選ばれた信仰によるものだった。キリストによる恵みがどんな富よりもすばらしいことを思わせていただく。

●賛美／309 ●祈禱課題

◆この教会に連なるすべての方々が聖日礼拝を厳守できるように。聖書通読を続けられるように。御言葉を味わえるように。祈りに励めるように。ささげる恵みにあずかれるように。積極的に神さまから受けた恵みを語れるように。

◆受験生、就職活動者、試練にある者のために。



# おやこでせいしよ

## ●きょうのせいしよ

【マルコによるふくいんしよ 4:35~41】

「あらしがしずまる」

(マルコ 4:39)

あるひ イエスさまは でしたちに「むこうぎしにわたろう」といわれました。もちろん ふくいんをつたえるためです。そこで、でしたちは ふねを よういし、みんなでのって むこうぎしへと こぎだしました。

すると、とつぜん、つよいかぜが ふきはじめ それとともに おおきな なみが たつような たいへんな あらしに まきこまれてしまいましたのです。たちまち ふねのなかに みずがはいってきました。でしたちは いくたこちがしません。おおあわてです。

ところが、ふとイエスさまを みてみると、ねておられるではないですか。でしたちは「せんせい！ふねが しずんでしまいます。わたしたちが このまま おぼれしんでも かまわないのですか？」。

すると いえすさまは おきあがり、かぜをし

かり、みずうみに「だまれ。しずまれ」といわれたのです。すると、いままでの あらしが うそのように、すぐに しずかな みずうみになりました。そして、でしたちに いわれたのです。「なぜ こわがるのか。まだ しんこうがないのか」。でしたちは おどろいたり、おそれたり、はずかしかったり、ふくざつな おもいでした。そして、かぜもみずうみも しずめてしまわれる、このかたは いったいどのような おかたなのだろうと おもいました。

みんなは イエスさまが どのような おかたかわかりますね。てんちをつくられた かみさまでも あられます。だから、どんな あらしでも したがわせてしまう、けんいを おもちなのです。

わたしたちは イエスさまを しんじて まいにちを せいかつしています。イエスさまが いっしょですから、どんな こわいことがあっても、あらしのような たいへんなことがおこっても、かならず しずめてくださると しんじて いきましょう。

## ●かんがえてみよう

☆イエスさまは でしたちと どこにむかいましたか。(マルコ4:35)

☆でしたちは いくとちょうで おおさわぎになりました。なぜですか。(マルコ4:37)

☆イエスさまは どのようにして あらしを しずめられたのですか。(マルコ4:39)



# なみむ聖書

## もじ独

あいているマスに、右の9文字のどれかを入れます。タテ列（9列あります）、ヨコ列（9列あります）、太線で囲まれた3×3のブロック（それぞれ9マスあるブロックが9つあります）のどれにも9文字のいずれかがはいりませんが、文字が重なってはいけません。数独と同じ要領です。

ふねがみずびたしに

		び	ず		た	に	み	ふ
し			ふ	み		な		が
		ず	ね	が	に		び	し
が	ね	し				ず	に	び
に			し	び				み
び			が	に	ね	し		
み	し	ね		た	ふ	び		
	び				し		た	に
た	ふ	に		ず		み		

ことばあそび

今週の聖書箇所の中に出てくる言葉です。それぞれを並び替えると意味が通る言葉になります。答えてください。

- ① いなかがしこんのう
- ② なにっぎたな
- ③ おぬしぼれ
- ④ むしうこぎ

まちがいさがし

3つあるよ!さがしてね





# 牧師の 聖書 ななめ読み

「おどし」

トランプが大統領に就任する前から、その言動が毎日のように報道されていましたが、どこまで本気なのか計り知れないところもあって、世界が疑心暗鬼になっています。今の時点で一番目立つのが、関税をちらつかせておどしをかけている外交政策でしょうか。「俺の言うことを聞かないと、高い関税をかけるぞ」という、高圧的なやり方は、今まで自分が事業をしていく中での常套手段だったのでしょ

う。自分がそのような手法で大富豪になったのだから、国政だって同じようにやれば成功すると考えているのですが、果たして、どうなのか、今後の各国の出方では、窮地に陥ることだって、また思わぬ落とし穴にはまったり、さらには妥協せざるを得ないような、彼にとって屈辱的な場面も出てくるのではないかと思います。とにかく、自国だけ富んでいたとしても、他国のことを考えなければ、必ずほころびが生じます。共存共栄の道を常に考えていくことが重要です。

『クリスマスキャロル』に登場するスクルージは、自分が富むことばかりを考えて心が乏しくなっていました。モデルになったと思われるのはザアカイです。クリスチャンと自称するトランプも、ぜひわきまえてもらいたいものです。

## 聖書ふれあい街歩き

### ●カパドキア

ペトロの手紙一の冒頭にあるクリスチャンたちの寄留地、Pontus、ガラテヤを紹介したので、カパドキアにも触れておきましょう。

現在のトルコ中央部、ガラテヤ地方の東隣、パレスチナの北部とも隣り合わせに位置するカパドキアは、旧約聖書にも出てくるペルシアのダレイオス1世が町を興したと言われていますが、以来、様々な支配者が入れ替わり立ち替わり治め、この時代にはローマ帝国の属州の一つになっていました。

数百万年前の火山活動によって形成された地形は、噴火で堆積した火山灰が凝固して「凝灰岩」という柔らかい岩層となり、長年の風雨による侵食で奇岩群、ご覧になったことがあるでしょう、「妖精の煙突」とも呼ばれているのですが、キノコのような形になった岩が乱立しています。今でこそ世界遺産となり、観光地として知られていますが、当時は幻想の世界のような独特の雰囲気が合ったに違いありません。実は地下も岩盤が複雑に侵食されていて、それを利用して地下都市が「隠れキリシタン」によって造られました。場所によっては数千人が暮らしていた場所もあり、教会や住居、貯蔵庫や牧場もあり、通常の生活ができました。

## ななめ聖書 先週のこたえ

に	え	た	う	て	る	の	い	わ
う	の	い	た	わ	に	る	て	え
わ	て	る	の	い	え	う	た	に
る	に	わ	て	え	た	い	う	の
の	う	て	わ	に	い	た	え	る
た	い	え	る	の	う	わ	に	て
い	る	の	に	う	て	え	わ	た
え	わ	に	い	た	の	て	る	う
て	た	う	え	る	わ	に	の	い

- ①きいておこなうもの
- ②かしこいひと
- ③じぶんのいえ
- ④たおれかた





## パウロの神論

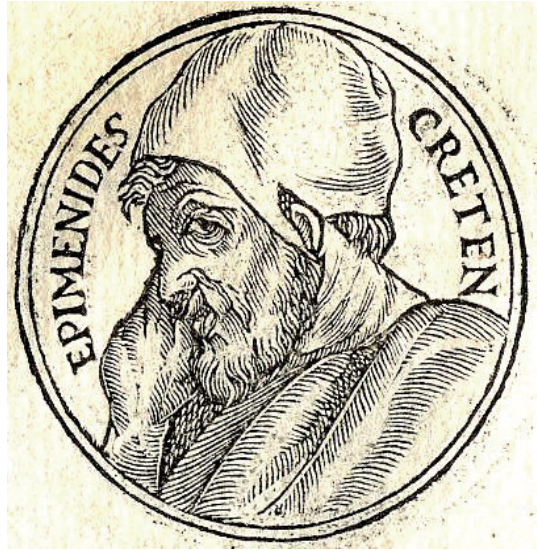
「私たちは神の中に生き、動き、存在しているからです。

皆さんのうちのある詩人たちも、『我らもその子孫である』と言っているとおりです。私たちは神の子孫なので、神である方を、人間の技や考えで刻んだ金、銀、石などの像と同じものと考えてはなりません。

さて、神はこのような無知な時代を大目に見てくださいましたが、今はどこにいる人でも皆悔い改めるようにと、命じておられます。

先にお選びになった一人の方によって、この世界を正しく裁く日をお決めになったからです。神はこの方を死者の中から復活させて、すべての人にそのことの実証をお与えになったのです。」

(使徒言行録17:28~31)



「ある詩人」エピメニデス

## 【悔い改めよ】

パウロは、ギリシアの人に対して「自分の信じている神」について「弁明」したのち、その神が私たちがどのように思っておられるのか、すなわち、福音を語り始めます。

## ●ある詩人たち

説教者は、集まった聴衆がどのような人たちであるかを観察し、即座に判断して、どのように話すかを組み立てます。おわかりのように、小学生に語る時と、高齢者に語る時では、同じ聖句から取り次ぐにしても、内容や言葉遣い、そして話題もまったく違います。

出版社で仕事をしていた時代、企画会議で煮詰まってしまい、頭をリフレッシュしようと、上野の寄席に落語を聞きに行ったことがありました。その時、二つ目あたりの落語家が、まくらと言って、本題に入る前に聴衆を向けさせるための話を始めました。ところが、子どもが全くいなかったのにもかかわらず、「今日はお子さんもおみえになっていて…」と話したのだから、途端に、まばらだった客席から、「どこに子どもがいるんだよ！」との声がかかりました。子どもがいるだろうと思って、前もって、こう話そうと決めてきていたのでしょうか。でもあてが外れて子どもがいない、でも、わかりながらもそれに対応できる技量がなかったのです。

ここでも取り上げたことがあります。パウロは聴衆を自分の話に引き込ませる技量を持ち合わせていました。先には「知られざる神に」であったり、当時はやっていた「ストア派」や「エピクロス派」を引き出していましたし、ここでは「ある詩人」を話題として提供しました。これは、ア

テネに入ってから、様々なものを観察し、その動向を感じ取っていたからにほかなりません。それだけ、人々に関心を持ち、なんとかして救いに導きたいと願っていたからにほかなりません。

さて、パウロが持ち出した「ある詩人たち」ですが、調べたところ、BC600年頃に存在していたとされる古代ギリシアの詩人エピメニデス、さらにはBC300年頃に活動していたストア派の詩人アラトスではないかとされています。パウロがこのような情報をいつ仕入れたのかわかりませんが、おそらくアテネに来てからだろうと考えられます。であるならば、ものすごい知識量をもつすごい速度で吸収していたわけです。説教をさせている者からしたら、驚きとしか言い様がありません。どのようにして広く、さらに深く知り得たのでしょうか。大したものだと思います。

さて、前述の2人についてもう少し触れておきます。

エピメニデスは宗教的な詩や哲学的な著作で知られているのですが、洞窟の中で57年眠り続けたとか、300歳まで生きたなど伝説的な人物です。クレタ島出身の詩人だったとされていて、クレタ島に遣わされたテトスが「クレタ人はいつも嘘つき、たちの悪い獣、怠け者の食いしん坊」(1:12)と引用したのは、この人の言葉だと言われています。

アラトスはギリシアの天文学者で詩人でした。ゼウスに関する詩の中で、「私たちは皆、ゼウスの子孫である」という表現があるとのこと。

パウロは、ギリシャ文化に精通しているアテネの聴衆に共感を得るため、彼らのよく知る詩人たちの言葉を引用し、興味を抱かせたのです。



## キリスト教まるわかり Q&A

### ◆何もわからないのですが。

必要なものはお貸しし、一つずつお教えいたします。また信仰の強要はいたしません。

### ◆礼拝とは何ですか。

私たちの悩みは神から離れていることに原因があります。礼拝で神を賛美し、祈り、御言葉を聞くことにより、人間のあるべき姿を取り戻していく、それが礼拝です。

### ◆献金とは何ですか。

神への献身を表すもので、お布施や聴講料、会費ではありません。本人の意志に任されておられ、あくまでも自由です。趣旨のわからない方はなさらなくても問題ありません。

### ◆聖餐式とは何ですか。

信仰告白をし、洗礼(バプテスマ)を受けておられる方のみになりますが、主イエスと共に生きていることを確認する儀式で、聖別された

パンとぶどう液をいただきます。

### ◆信者になるにはどうしたらいいですか。

自分の意志で主イエスの福音を信じ、洗礼を受けることにより教会員(信者)と呼ばれます。

### ◆キリスト教会は様々な教派があります。

大きく分けてカトリック教会とプロテスタント教会があります。プロテスタント教会は、設立された時代や地域、歴史的な背景によって成立が異なるため、多くの教派がありますが、憎み合っているのではなく、互いの特色を認め合い、助け合っています。

### ◆にせのキリスト教会がありますか。

キリスト教の枠組みからずれている教えについて、私たちは異端と呼んでいます。代表的な団体には「エホバの証人」「モルモン教会」「世界平和統一家庭連合」などがあります。特に韓国系キリスト教活動にはお気をつけください。お困りの方は牧師までご相談ください。

## 2025年教会暦・年間行事

(#はその年によって変動します)

「教会暦」はキリストの生涯をたどりながら1年を過ごすために作られました。当教会では教会暦に、継承されてきた伝統的記念日に加え、守っています。

### \*\*\*顕現節(1/6～#3/4)\*\*\*

降誕日(12/25)から12日後に東方の博士がキリストを礼拝した顕現日(1/6)から始まります。降誕されたキリストが世界の救い主であることを覚えて過ごします。顕現節の最終主日は受難の整えをされた変貌のできごとを覚え、変容主日(#3/2)として守ります。

### \*\*\*四旬節(#3/5～#4/12)\*\*\*

前年に使用したしゅろの枝を灰にしてかぶり悔い改めを表した儀式(この教会では行いません)、灰の水曜日(#3/5)から始まります。レントとも呼び、主日を除いた復活日前日までの40日間、キリストの受難を覚えて過ごします。

四旬節に続く受難週(#4/13～4/19)は、主イエスの最後の1週間を覚える週で、エルサレム入城に際し、しゅろの枝を用いて歓迎したしゅろの主日(#4/13)から始まり、洗足と主の晩餐が行われた木曜日(#4/17)、十字架にかかれた受難日(#4/18)と過ごしていきます。

### \*\*\*復活節(#4/20～#6/7)\*\*\*

キリストが死にかけて復活されたことを祝うイースター(復活日・#4/20)から始まります。春分の日後の最初の満月の次に来る日曜日と定められているので、祝日が毎年変動します。40日後のキリストの昇天(#5/29)を迎えたのち、復活節の最終主日(昇天主日#6/1)となります。

### \*\*\*聖霊降臨節(#6/8～#11/29)\*\*\*

復活日から50日目、聖霊が使徒たちに降ったことを記念する聖霊降臨日(ペンテコステ・#6/8)から始

まり、三位一体主日(#6/15)では父、御子、御霊の働きを告白し、過ごします。最も長い節期となります。

### \*\*\*待降節(#11/30～12/24)\*\*\*

救い主キリストの誕生を祝う備えをしながら、待ち望むアドベント(待降節)は、11月30日に一番近い主日から始まります。降誕を祝うクリスマスは12月25日ですが、クリスマス礼拝(#12/21)は、25日以前の日曜日を選んでをささげています。

### \*\*\*降誕節(12/25～1/5)\*\*\*

イエス・キリストの誕生を祝う日(12/25)から始まり、顕現日前日までの期間を指します。

### 【記念日】

母の日(5/11・5月第二)  
ウェスレー回心記念日(5/24・1738年)  
花の日(子どもの日・6/8・6月第二)  
父の日(6/15・6月第三)  
ホーリネス弾圧記念日(6/26・1942年)  
宗教改革記念日(10/31・1517年)  
収穫感謝日(11/23・11月第四)

### 【当教会行事】

新年元旦礼拝(1月1日・水)  
成人祝福礼拝(#1/14・1月第二)  
聖書愛読週間(#3/23～29)  
みふみの日(3月23日)  
教会創立記念礼拝(3月最終主日/創立記念日3/27)  
最後の晩餐集会(#4月17日夕)  
召天者合同記念礼拝(#6/1・6月第二\*今年は第一)  
弾圧記念礼拝(#6月22日・26日前後の主日)  
石出忠師記念礼拝(#7月6日・7月第一)  
敬老祝福礼拝(#9/14・9月第三)  
子ども祝福礼拝(#11/2・11月第一)  
クリスマスイブ礼拝(12月24日夕・水)

## 教会紹介

### ●歴史

私たちの教会は、ジョン・ウェスレーを源流とするメソジスト(青山学院、東北学院など)の信仰を継承しており、メソジストの教職であった中田重治が1901年に創立したホーリネス教会の信仰を受け継いでいます。2022年3月27日に創立いたしました。

### ●教義

旧新約聖書66巻を誤りない神の言と信じ、唯一の正典として信仰生活の規範にしています。また三位一体の神を信じ、イエス・キリストによる以外に救いがないことを告白しています。特色は、下記に紹介する四重の福音を強調していることです。

#### 【四重の福音】

四重の福音は、長老教会の牧師A. B. シンプソンが提唱したものを、ホーリネス教会の創設者中田重治が自らの信仰に基づいた理解を加え、福音宣教の際に掲げた教えです。

人間の幸せは神と共に生きることで実現するのですが、神を認めず生きているため、むなしく日を過ごしているのが現実です。しかし、イエス・キリストが十字架によって神と人との絆を回復してくださったのです。これが福音です。この福音を信じることで、人間は本来もっていた真の幸いを覚えながら、充実した人生を送れるのです。

中田は、聖書に書かれてあるこの福音をわかりやすく語るべく、前述の提唱にある新生、聖化、神癒(しんゆ)、再臨(さいりん)の4項目に基づいて、以下のようにまとめました。

◆**新生** キリストの十字架と復活を信じ、新しく生まれ変わる。これにより、天に住まう者のように、日々喜びが与えられる。(コリントの信徒への手紙2:5:17など)

◆**聖化** 神に属する者であるとの自覚が与えられたことで、自己中心に生きていた心が砕かれ、同時に神中心の生活を求め始め、神のきよさに近づくこと。(ガラテヤの信徒への手紙2:19～20など)

◆**神癒(しんゆ)** 肉体を持っているがゆえに弱る私たちが、神のあわれみにより、病い、そして死の恐怖にも打ち勝つ力が与えられ、苦しみから解放されること。(出エジプト記15:26など)

◆**再臨(栄化)** キリストが再び地上に来られること。その時、死んだ聖徒たちは復活し、生ける信徒は死を経験せずに天に挙げられる。(コリントの信徒への手紙1:15:51など)

## 教会の信条

さがみはら きょうかい いか しんじょう かか  
相模原ホーリネス教会は以下を信条として掲げています。

わたし  
私たちはイエス・キリストを救い主として信じています。

しゅ  
主イエスは、「神の国は近づいた。悔い改めて福音を信ぜよ」と宣言されてから約3年間、ひとびとを救い、人々にその教えとみわざを通して神の国の恵みを明らかにされ、そののち、私たちの罪を負って、十字架にかかれ、あがないを成し遂げ、神の国にはいる救いの道を開かれました。

この主イエスの救いへの招きに応じて神の国に属して生きる者となった私たちは、聖書が示しているこの時代に、使命を全うすべく、「あなたこそ生ける神の子キリストです」と信仰告白をした者たちと共に、神の国の鍵を与えられた教会の一員とされたことを覚えながら、聖霊の助けによって以下のことを宣証しつつ歩みます。

- ①キリストによる完全な救い
- ②真心からささげる礼拝
- ③キリストをかしらとした教会の交わり
- ④神の憐れみによるいやしと慰め
- ⑤信仰生活がもたらす祝福
- ⑥世界にも目を向けたとりなしの祈り
- ⑦神の愛に基づく社会への貢献

## MEMO

## 単立 相模原ホーリネス教会

創立 2022年3月27日

主任牧師 土屋 和彦 牧師 石出 佳代子 牧師 土屋 淳子

252-0205 相模原市中央区小山 3-31-3

TEL&FAX 042(772)8910 e-mail church@bethels.info

ホームページ <http://www.bethels.info/>

